

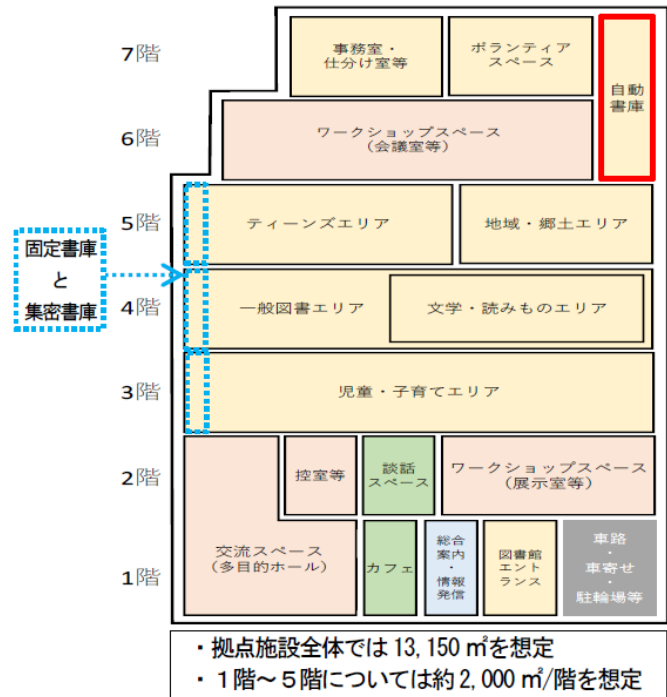
知と交流の拠点施設（新図書館）整備事業 報告書

1. どんな事業か？（事業の概要）

現在、老朽化が進んでいる市立図書館に代わり、中心市街地に「知と交流の拠点施設」を新しく建設するプロジェクトです。

- ・規模
地上7階建て、延べ床面積 約 13,150 m²
- ・蔵書数
現図書館の約 48 万冊から、約 70 万冊規模へと大幅に拡大します。
- ・特徴
図書館の機能に加え、カフェ、多目的ホール、多世代が交流できるワークショップスペースを備えた複合施設です。

【知と交流の拠点施設におけるフロア構成のイメージ】



2. なぜ「設計・工事を一括発注」するのか

市は今回、設計と施工をセットで発注する「デザインビルド方式」の採用を決めました。

- ・背景 : 全国的な資材価格の高騰や人手不足により、入札が成立せず工事が遅れるリスクが高まっているためです。
- ・メリット : 施工者のノウハウを設計段階から取り入れることで、工期の短縮やコストの抑制が期待できます。
- ・議会の視点 : 議会からは「業者任せ（白紙委任）」になり、市のチェック機能が働かなくなるのではないかと、という厳しい指摘がありました。

3. お金の話（予算と財源）

総事業費は、現時点の試算で約 137 億円～167 億円を見込んでいます。市は、以下の方法でなるべく金銭的な負担を減らそうと考えています。

- ①国の補助金（10～20 億円）を積極的に活用します。
- ②本市ゆかりの企業であるイオングループより、10 億円の寄附をいただけることになりました。
- ③現図書館の跡地は、将来的に売却などを含めた除却を検討し、財源の確保に努めます。

4. 議会が質した「住民目線」のチェック（主な質疑）

審査の中で、議員から出された主な質問と、それに対する市の回答をまとめました。

質問のポイント	議員の指摘・質問（議会）	市の回答・考え方（行政）
建設費の妥当性	幅のある予算の理由は？	物価高騰などの不確定要素に備えた幅です。要求水準書を作成し、予算内で品質を保ちます
施設の機能	多目的ホールなどが、近隣の既存施設と重複していないか？	本を読むだけでなく、多世代が交流する場を目指しています。具体的な活用法は今後、市民の声を聞いて精査します
収蔵の効率化	限られたスペースで、どうやって蔵書を 20 万冊増やすのか？	『自動書庫』を導入します。狭いスペースでも高密度に保管できる仕組みです
手順の是非	用地の取得や市民の意見を聞く前に、設計予算を立てるのは順序が逆ではないか？	国の特例（税負担の軽減）を受けるためには、早急に具体的な図面と計画が必要なため、この順序となりました

5. 今後の見通し（いつ、どうなる？）

計画が最短で進んだ場合のスケジュールです。

- ・令和 8 年度～9 年度：基本設計の策定、用地の取得、市民意見の聴取、実施設計
- ・令和 10 年度：施設の本体工事が始まる
- ・令和 11 年度末：令和 12 年の春頃に新しい図書館がオープン（供用開始）する予定

6. 議会の意見

今回の審議の結果、総務常任委員会としては可決すべきだと判断しました。しかし、それは「すべてを認めた」ということではありません。

議員からは、「行政が主体性を失わず、厳しく業者を管理し、また、市民から意見を丁寧に聞き取って、市民が納得できる施設にすべきだ」という強い要望が付されました。

「知と交流の拠点施設」が、真に市民に求められ、市の財政を過度に圧迫しない持続可能な施設となるよう、議会は今後も厳しいチェックを続けてまいります。